

日程(月日)	日数 A	活動内容	場所	共同研究員・研究協力者の参加者名	参加者数 B	延人数 A × B
記入例 2019.11.25	2	研究打合せ	東京	北大太郎、北方次郎、北野三郎	3	6
2018.04.11	1	ASIAQ1 準備会合	東京・千葉	村山英晶、北澤大輔、和田良太、小平翼	5	5
2018.04.27	1	ASIAQ2 準備会合	東京	村山英晶	10	10
2018.05.03	1	ASIAQ1 および調査打合せ	東京・ストックホルム	村山英晶、Magnus Burman	2	2
2018.05.07	1	ASIAQ1 および調査打合せ	東京・ストックホルム	村山英晶、Magnus Burman、Stefan Hallström	3	3
2018.05.23	1	講演会参加	ストックホルム	和田良太、小平翼	約 100	約 100
2018.05.24	2	ASIAQ1 ワークショップ	ストックホルム	村山英晶、北澤大輔、和田良太、小平翼、Nina Krichner、Jakob Kutenkeuler、Magnus Burman、Marina Kalinina、Larry A. Mayer	42	84
2018.05.26	1	砕氷船 Oden 調査	ヘルシンボリ	村山英晶、和田良太、小平翼、Nina Krichner	7	7
2018.05.28	1	SSPA 水槽設備調査	ヨーテボリ	村山英晶、和田良太、小平翼、Magnus Burman	8	8
2018.05.29	1	スウェーデン王立工科大学 KT の海洋ドローンおよび複合材料研究の調査	ストックホルム	村山英晶、和田良太、小平翼、Magnus Burman、Stefan Hallström	10	10
2018.07.25	1	全体会合	東京・千葉・横浜・札幌	山口一、村山英晶、早稲田卓爾、北澤大輔、巻俊宏、菊地隆、末吉哲雄、大塚夏彦、大西富士夫、安部智久、柴	13	13

				崎隆一、和田良太、小平翼		
2018.10.09	1	ASIAQ2 準備会合	東京	村山英晶	3	3
2018.10.15	2	ASIAQ2 準備会合	千葉	村山英晶、Magnus Burman	2	4
2018.10.23	1	セミナー	千葉	村山英晶、柴崎隆一、Magnus Burman、Stefan Hallström	10	10
2018.10.29	2	ASIAQ2	東京	山口一、村山英晶、早稲田卓爾、北澤大輔、巻俊宏、末吉哲雄、安部智久、柴崎隆一、和田良太、小平翼、Magnus Burman、Peter Sköld	25	50
2018.11.01	1	研究打合せ	東京	巻俊宏、Magnus Burman	3	3
2018.11.02	1	ASIAQ2 まとめ	千葉	村山英晶、Magnus Burman	2	2
2018.12.08	1	「みらい」北極観測航海後の作業	清水	松井慶太	2	2
2019.2.15	2	海氷観測に関する事前調査	紋別・サロマ湖	早稲田卓爾、小平翼	2	4
2019.2.17	2	第34回北方圏国際シンポジウムでの調査	紋別	早稲田卓爾、小平翼	2	4
2019.2.18	2	第34回北方圏国際シンポジウムでの調査	紋別	小平翼	1	2
2019.2.18	3	第34回北方圏国際シンポジウムでの研究発表・討論	紋別	矢口春吾	30	90
2019.02.22	3	研究打合せ	ストックホルム	和田良太、Gabriele Messori	2	6
2019.02.25	1	セミナー	ストック	村山英晶、和田良太、	9	9

			ホルム	Magnus Burman、 Stefan Hallström		
2019.02.26	1	研究打合せ	ストック ホルム	村山英晶、和田良太、 Magnus Burman、 Stefan Hallström	4	4
2019.02.28	2	砕氷船構造につ いての情報交換	デルフ ト	村山英晶	2	4
2019.03.19	1	研究打合せ	津	山口 一	5	5

【研究論文や著書等】

著者名(共著者名含む)、発行年、論文タイトル、掲載誌名、巻・号、ページ数、DOI、査読の有無、インパクトファクター(IF、分かれば)、分野(表下にある(注3)から一つ番号を選択)を記入して下さい。

著者名, 発行年, 論文タイトル, 掲載誌名, 巻・号, ページ, DOI	査読の有無	IF	分野 (注3)
Takahashi, Y., Yamaguchi, H., Ushio, S., Yamauchi, Y., and Mizuno, S.(2019): Turning features of an icebreaker during ramming operations: a case study, <i>Okhotsk Sea and Polar Ocean Research</i> , 3, 13-19	○		③
Zhu, M., Murayama H.(2018): Fast demodulation of OFDR based long length FBG sensing system for noisy signals, <i>Optics Express</i> , 26(16), 19804-19814, https://doi.org/10.1364/OE.26.019804	○	3.3 56	③

(注3) 分野:① 環境&地球科学 ② 人文社会系 ③ 工学 ④ 基礎生命科学 ⑤ 化学
⑥ 材料科学 ⑦ 物理学 ⑧ 計算機&数学 ⑨ 臨床医学

【研究発表】

以下の事項をご記入ください。

発表年月日、発表者名(共著者を含む)、発表タイトル、発表学会等名称、発表地(国、県、市など)、招待講演についてはその点も明記してください。

発表年月日	発表者名	発表タイトル	発表学会等名称	発表地	招待講演 (○)
2018.05.24-25	Daisuke Kitazawa(東京大学生産技術研究所)	Center for Integrated Underwater Observation Technology - Evolution of Studies on Underwater	ASIAQ1	ストックホルム	

		Technology –			
2018.05.24–25	Ryota Wada (東京大学大学院新領域創成科学研究科)	Ocean Technology for a Sustainable Future	ASIAQ1	ストックホルム	
2018.05.24–25	Takuji Waseda, Tsubasa Kodara, and Tak Nose (東京大学大学院新領域創成科学研究科)	Research on Arctic Waves	ASIAQ1	ストックホルム	
2018.05.24–25	Liyanarachchi Waruna Arampath De Silva, Hajime Yamaguchi (東京大学大学院新領域創成科学研究科)	Short-term sea ice forecasting during extreme Arctic cyclone in August 2016	ASIAQ1	ストックホルム	
2018.12.4–7	Shungo Yaguchi (東京大学大学院新領域創成科学研究科), Yuto Takahashi (東京大学大学院新領域創成科学研究科), Shuichi Fushimi (東京大学大学院新領域創成科学研究科), Hajime Yamaguchi (東京大学大学院新領域創成科学研究科), and Shuki Ushio (国立極地研究所)	Comparison of L-band ALOS-2/PALSAR signature with Helicopter-borne measurements of sea ice condition at Lu tzow-Holm Bay, Antarctica	9th Symposium on Polar Sciences	立川	
2019.2.17–20	Shungo Yaguchi (東京大学大学院新領域創成科学研究科), Noriaki Kimura (東京大学大気海洋研究所, Motoyo Itoh (海洋研究開発機構), Yasushi Fukamachi (北海道大学北極域研究センター), Takashi Kikuchi (海洋研究開発機構/東京大学大学院新領域創成科学研究科), and Hajime Yamaguchi (東京大学大学	High resolution sea ice motion analysis with MODIS data in the western Arctic region	第34回北方圏国際シンポジウム	紋別	

	院新領域創成科学研究科)				
2019.2.18	早稲田 卓爾, 野瀬 毅彦, 小平 翼 (東大院新領域), Alison Kohout (Univ. Victoria, Canada), Johannes Gemmrich (National Inst. Water Atmospheric Res., New Zealand), Hui Shen (Bedford Inst. Oceanogr., Canada), 猪上 淳 (極地研)	Observed Waves in the refreezing eastern Chukchi Sea during 2018 Mirai Cruise	第34回北方圏国際シンポジウム	紋別	
2019.2.18	小平 翼, 野瀬 毅彦, 早稲田 卓爾 (東大院新領域), 猪上 淳 (極地研)	Oceanographic observation of refreezing warm Chukchi sea during 2018 Mirai Cruise	第34回北方圏国際シンポジウム	紋別	

【特許等】

特許・実用新案・商標などの出願がありましたら記載願います。

例) 特許第〇〇〇号(特願〇〇〇-〇〇〇)「発明名称〇〇〇〇〇〇〇〇」

無し。

【本共同研究の枠組みで実施した集会(注4)等】

(注4) 共同研究者、研究協力者、招へい者以外を含む参加募集によるもの

実施日、実施地(国、県、市など)、集会等名称、概略内容、対象者(「主に研究者」あるいは「主に研究者以外」)、参加人数(「主に研究者を対象」とした場合は外国研究機関の所属者の内数についても括弧内に明記ください。)

実施日	実施地	集会等名称	発表名・概略内容	対象者	参加人数 ()
2018.05.24 -05.25	ストックホルム	ASIAQ1	1) Current activities and applicable technologies in UTokyo for Arctic researches. 東京大学に	主に研究者	42(37)

			<p>おける北極研究の紹介 および日本の北極研究 のネットワークの紹介。</p> <p>2) ASIAQ2 in Tokyo. 2018 年 10 月に開催する ASIAQ2 についての報 告。</p>		
2018.10.29 -10.30	東京	ASIAQ2	<p>1) Arctic research in Japan. 日本の北極研究につい て紹介。</p> <p>2) Development plan of a high-mobility lightweight AUV for under ice survey. 低コス ト AUV と氷海探査への 応用。</p> <p>3) Communicating and implementing the sustainable development goals. 北極域における コミュニケーションと持続 可能な開発に実装。</p> <p>4) Numerical simulation of marine environment using a hydrodynamic and ecosystem coupled model. 流体力学と生態 系の連成シミュレーショ ンの研究紹介。</p> <p>5) Arctic shipping from logistics viewpoint: status and research. 北 極域の海上輸送の研究 紹介。</p> <p>6) How do the new shipping routes Asian LNG markets and economy? - case of the Northern sea</p>	主に研究者	25(10)

			<p>route and Panama canal expansion -. 北極航路の LNG 輸送に対する影響の研究紹介。</p> <p>7) Wave-ice interaction in the emerging Arctic Open Waters. 北極域における波-氷の相互作用の研究紹介。</p> <p>8) Extremes in the Arctic. 北極域の極端海象についての ASIAQ 内での共同研究についての紹介。</p> <p>9) Develop total water level prediction system for global storm surge. 高潮による水面上昇予測に関する研究紹介。</p> <p>10) Fiber-optic sensors and application to the Arctic. 光ファイバセンサの紹介と北極域への適用についての提案。</p>		
2019.02.25	ストックホルム	Seminar in KTH lightweight structure and marine system groups	<p>1) Fiber-optic sensors & its application to structural health monitoring. 海洋における光ファイバセンサの適用構想についての「紹介。</p> <p>2) Research activities in OTPE & Extreme and Uncertainty in Ocean Engineering. 東京大学大学院新領域創成科学研究科海洋技術環境学専攻の研究紹介および</p>	主に研究者	9(7)

			海象予測への極値統計 の適用。		
--	--	--	--------------------	--	--

【本共同研究の発展】

本共同研究の成果が科学研究費などの外部資金の応募やプロジェクトに発展した例があればご記入ください。

1) ASIAQ Mobility Grant への応募(和田良太、Gabriele Messori)

本共同研究で連携している国際共同プロジェクトにおける第1回ワークショップ ASIAQ1 に参加した両名が研究交流を通して具体的な研究プロジェクト「Extreme value analysis of temperature fields over the High Arctic」を企画し、実施している。ASIAQ Mobility Grant は若手研究者の研究交流を支援するものであり、これまでの成果と研究計画を用いて申請した結果、研究助成(約 50,000SEK、60 万円程度)に採択された。同助成を用いて来年度に相互を一週間程度訪問し、共同研究を進めるとともにセミナー開催などを企画する。

<https://asiaqdotorg.files.wordpress.com/2018/02/asiaq-mobility-grants.pdf>

2) 指導受託

スウェーデン Luleå University of Technology に所属する修士課程2年生を、2019年3月から半年間山口一研究室に受け入れ、海氷の衛星リモートセンシングに関する修士論文研究の指導を行っている。

【アウトリーチ、取材、その他】

取材・新聞掲載などがありましたら、日時、新聞名、記事コピーを添付して頂くようにお願いします。

無し。